

指定管理者更新に係る検証シート

1 施設及び指定管理者の概要

施設名	道後公園	施設所管課	土木部道路都市局都市整備課
設置年月日	明治21年6月26日(平成14年4月1日 リニューアルオープン)	耐用年数	50年
現指定管理者名	コンソーシアムGENKI(NPO法人TIES21えひめ、(株)愛媛庭園、(株)遊魚)	現指定期間	平成31年4月～令和6年3月(5年間)
これまでの指定の状況	第1期:平成18年4月～平成21年3月(3年間)、第2期:平成21年4月～平成26年3月(5年間)、第3期:平成26年4月～平成31年3月(5年間)		

2 検証のための指標の推移

(1) 利用者数

	平成17年度 (制度導入前年度)	平成30年度 (現指定期間前年度)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年間利用者数	45,970 人	75,800 人	67,605 人	17,151 人	17,260 人	32,964 人 (16,482 人)
対制度導入前年度比			147.1 %	37.3 %	37.5 %	71.7 %
対現指定期間前年度比			89.2 %	22.6 %	22.8 %	43.5 %

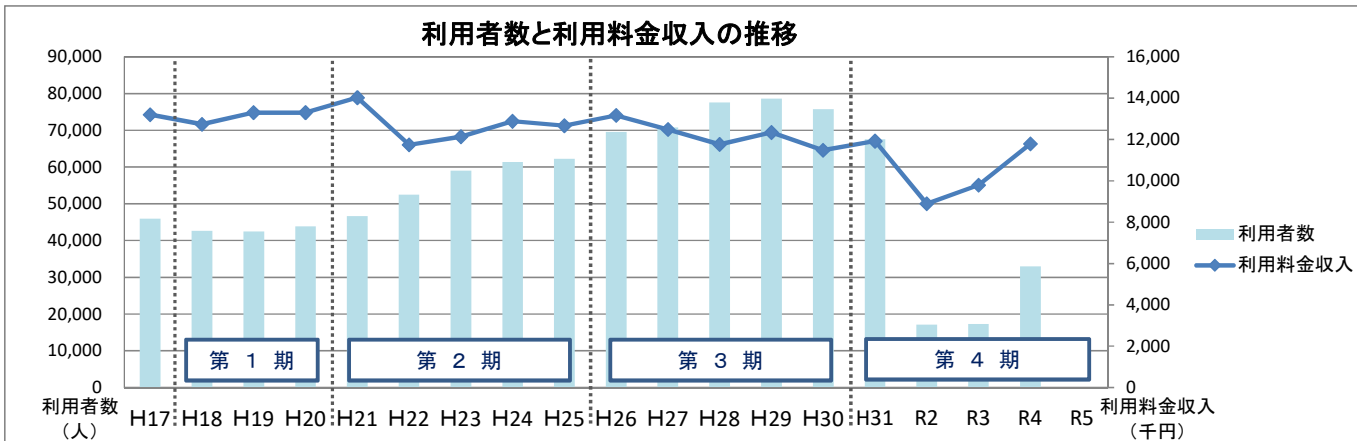
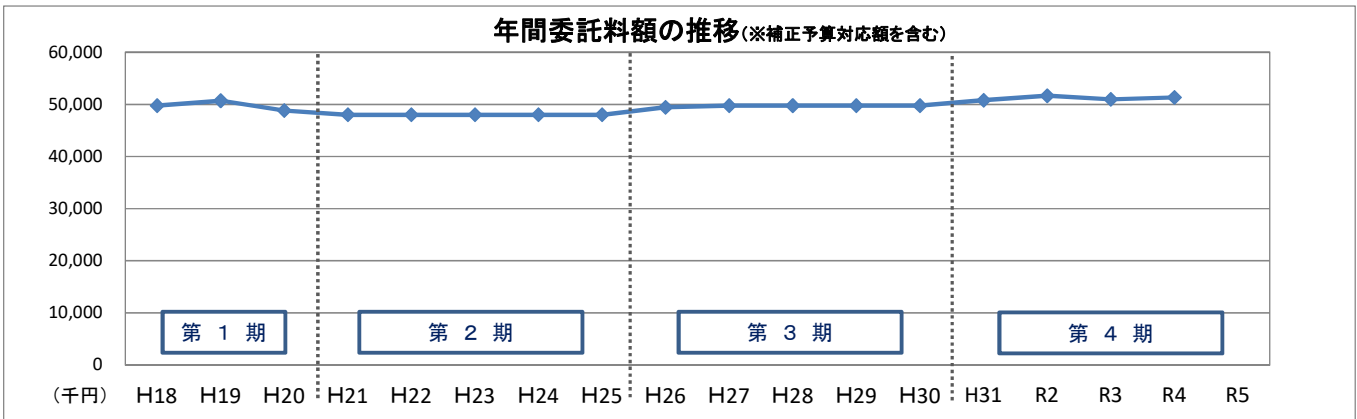
(※)令和4年度については、上段に年間見込数を、下段()内には令和4年10月末までの実績数を記載。

(2) 収支状況

	平成30年度 (現指定期間前年度)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度※1
収(入)	64,054 千円	65,802 千円	62,372 千円	62,867 千円	65,617 千円
委託料	49,742 千円	50,813 千円	50,659 千円	50,659 千円	50,659 千円
委託料(補正予算対応額)※2	— 千円	1 千円	1,002 千円	328 千円	680 千円
利用料金収入	11,485 千円	11,925 千円	8,888 千円	9,794 千円	11,788 千円
その他の収入	2,827 千円	3,063 千円	1,823 千円	2,086 千円	2,490 千円
支(出)	65,169 千円	65,322 千円	62,372 千円	62,867 千円	65,617 千円
収(A) - 支(B)	▲ 1,115 千円	480 千円	0 千円	0 千円	0 千円

(※1)令和4年度については見込み額を記載。

(※2)新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、補正予算で増額した委託料を記載



(3) 経費削減のための主な取組み（平成31年度～令和4年度）

- 職員による巡回、清掃作業の実施による維持管理費の削減
- ボランティア清掃の参加働きかけによる維持管理費の削減
- 徹底した消灯等による節電の実施
- 環境に配慮した管理により、廃棄物の排出を抑制

(4) サービス向上のための主な取組み（平成31年度～令和4年度）

- 湯築市、道後ひかりの実等の季節に合わせた自主事業の実施
- 資料館レベルアップ事業(湯築城歴史宿塾、出前教室等)の実施
- ボランティアガイドへの研修実施
- 外国語パンフレット作成による、インバウンド客への利便性向上
- ツアー客のための早朝、夕方の時間外開館への対応や、利用者増加が見込まれる年末年始の開館
- 近隣他施設(子規記念博物館、道後温泉旅館協同組合等)との共催企画イベントの実施
- より利便性の高いHPの更新や、フリーペーパーを活用した情報発信・広報活動

(5) コロナ禍における感染対策や利用者確保のための主な取組み

- 各建物への消毒液設置や資料館入館者数の制限、花見時期の巡回強化等による感染回避のための施設運営を心がけた。
- 中止を余儀なくされたイベントもあったが、感染拡大対策を講じた上で、道後オンセナートとの連携等の新たな利用者増加策に力を入れた。

3 次期更新に向けての評価等

(1) 現指定期間における指定管理者制度の導入効果の検証

利用拡大の観点から (利用者数、利用料金収入)	今期は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大幅に減少したが、指定管理者の魅力ある自主事業の実施や広報活動により減少幅を最小限に抑えることが出来ている。 収入の大半を占める駐車場収入については周辺の駐車場整備が進んだことで収入が伸び悩んでいるが、ボランティアガイドの活用などの魅力向上策を実施し、利用者の確保に努めている。
効率化の観点から (経費削減)	新型コロナウイルス感染症に伴う大幅な収入減の影響から委託料の増額を行ったが、ボランティア清掃の活用などにより経費を大幅に削減している。 修繕に係る必要経費が増加している中で経費配分の効率化のための見直しを常に行っている。
利便性・県民サービス向上の観点から	ボランティアガイドに対する歴史文化に関する研修の実施や、利用者の利便性を考慮した開館時間の変更を行うなど、利用者の満足度向上に努めている。 また、アンケート調査等により利用者の声を反映した施設運営に努めるなど、地域に根ざした公園づくりを心がけており、県民サービスの向上に効果があったと考えられる。
その他の観点から (前指定期間と比較して特筆すべき成果、利用者等の安全性の確保、収入確保に向けた取組みの状況(広告事業等)、その他協定の履行状況など)	地域住民と連携して防災訓練を実施するなど、公園の防災機能向上に努めるほか、道後旅館組合や商店街、多くのボランティアと信頼関係を築いた公園管理を行っている。 また、HPの定期的なリニューアルやフリーペーパーの活用など、利用者が情報収集を行いやすい形での広報活動に取り組んでいる。

(2) 次期更新に向けての方針及びその説明

道後公園は県民の憩いと安らぎの場であり、湯築城跡や伊予河野氏など歴史学習の場としても重要な役割を果たしている。このため、管理運営にあたっては、民間のノウハウを活用した魅力あるイベントの開催や地域住民との連携等、公園の利用促進のための効果的な運営を行うことに加え、中世の歴史に関する専門的な知識が求められる。